

平成30年度 大分県学力定着状況調査結果（中学校：英語）

1 結果のポイント

全問題数：35問（知識25問、活用10問）

- ・偏差値（知識51.8 活用51.0）で、昨年度（知識50.7 活用50.3）から、知識が1.1ポイント、活用が0.7ポイント上回った。
- ・「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のすべての領域において目標値を上回った。
- ・今回の調査においては、特に、リスニング（対話文の応答）、「場面に応じて書く英作文」に課題があることが見て取れる。

領域別正答率

領域	正答率	目標値
	国東市	
聞くこと	67.7	63.5
読むこと	58.8	57.5
書くこと	52.6	47.3

2 課題が見られた問題と指導の改善事項（領域別）

(1) 「聞くこと」

「対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題」について、3問中1問が目標値を大幅に下回った。具体的には、起床の時間を尋ねられて、At ～. と応答するところを It's ～. と答えて間違えた生徒が多かった。何を問われているかは聞き取れているが、受け答え方を理解していない。

また、「英文の要点を聞き取る問題」の正答率が低かった。語句単位で断片的な理解はできているが、文全体及び文脈で意味を把握できていない。



◎授業の始めのウォーミングアップ活動でQ&A活動をして、さまざまな種類の疑問詞のある疑問文の応答を繰り返し練習させる。

◎日常的に多様な表現を用いた会話活動をするなどインプット及びアウトプットする機会を増やす。

◎文字情報なしで音声を聞かせて適切な応答をさせる、内容に関する質問に答えさせるなど、目的を持って聞く活動を取り入れる。

◎まとまりのある英文を聞く活動では、初めに聞き取りの視点を与えたり、「話し手が最も伝えたいことは何か」等の発問をしたりして聞かせる。

(2) 「読むこと」

「英文と資料の情報・条件をもとに相手の要望に対して適切な応答を選ぶ問題」、「読み取った英文の内容をふまえて、作文を書く問題」が目標値を下回っている。

英文全体の意味を把握し、その情報を資料や表と照らし合わせて考えることができていない生徒が多い。英文の概要を把握すること、英文中から必要な情報を探し出すこと、まとまった量の英文の要点を理解することについても課題がある。



- ◎授業の中で手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容を尋ねる質問をしたりするなどして、書き手の伝えようとすることを正確に読み取るスキルを身につけさせる。
- ◎読む目的（英文の概要を理解する、英文中から必要な情報を引き出すなど）を明確にし、それに沿って多様な英文を主体的に読む活動を行う。
- ◎教科書USE READの学習では、逐語的な読みから脱却し、英文を意味のかたまりごとに大枠でとらえて読み取らせる指導をしたり、内容の要約をする問題を取り入れたりする。

(3) 「書くこと」

「単語を正しく書く問題」3問中の2問と、「代名詞の所有格を答える問題」、「現在進行形の動詞の変化形を選ぶ問題」が目標値を下回った。また、「場面に応じて書く英作文」の「英語で質問する文を書く問題」が目標値を大きく下回った。How を用いた疑問文、What を用いた相手が現在していることを尋ねる問題の正答率が低かった。対話の流れから場面を判断し、疑問詞を用いた疑問文を作ることができなかった生徒が多い。



- ◎基本的な語彙を定着させるため、授業や家庭学習での語彙指導を見直す必要がある。（特に英語が苦手な生徒に対して）
- ◎中学1年生の教科書素材文など、これまでに習った対話文の一部を空欄にし、そこに入る内容を考える活動が効果的であるので、これを定期的に取り入れて復習する。
- ◎会話文に限らず、文脈に沿った内容を自分の言葉で表現できるようになるためには、単に英文一文の意味を理解するのではなく、その文が使われる場面を意識しながら話の流れ全体を理解する必要がある。聞いたり、読んだりした内容をしっかり理解したうえで、「書くこと」の活動につなげる技能統合的型言語活動に慣れ親しませる工夫が求められる。

問題内容別正答率

問題の内容	正答率		目標値
	国東市	大分県	
リスニング（内容理解）	75.5	75.2	70.0
リスニング（対話文の応答）	56.0	53.6	53.8
語形・語法の知識・理解	54.8	55.4	56.3
語彙の知識・理解	38.8	35.4	38.8
さまざまな英文の読み取り	63.5	63.9	60.0
長文の読み取り	58.0	56.3	56.3
単語の並べかえによる英作文	65.3	58.7	56.3
場面に応じて書く英作文	13.8	19.1	30.0
3文以上の英作文	79.8	70.4	58.3

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

- (1) 基礎的・基本的な事項を確実に定着させるための指導の工夫をする。
 - 学習した語彙や表現を定着させるために、繰り返し使う機会を設けたり、定期的に振り返ったりするなどのスパイラル学習を行う。
 - 教え込むのではなく、生徒の気づきと学び合いを大切にする。
 - 生徒の実態を把握し、個に応じた支援を充実する。

- (2) 実生活に関連した課題などを通じて動機づけを行い、学びに向かう力を育成する。
 - 生徒自身の体験や考えなどに照らして、「話すこと」・「書くこと」に結びつけることが大切であるため、実生活に関連のある課題を取り入れるとともに、その提示の仕方を工夫する。
 - 教科書の英文だけでなく、学習者のレベルに合った多様な英文や問題に触れさせる。

- (3) T⇔S, S⇔Sの英語使用を増やす。
 - 教室を実際のコミュニケーションの場とする
 - 生徒が自分の考えや気持ちを表現できるような機会を多く設定する。
 - 生徒の英語による発言に対してきちんと対応する。生徒の英語を繰り返し、教師が生徒の発言を受け止めていることをしっかりと示したり、クラス全体で発言の内容を共有したりする。

- (4) 付きたい力を明らかにして指導と評価を行う。
 - 付きたい力を明確にした単元目標を設定し、生徒と目標を共有する。
 - ねらいを達成するための指導内容や評価の方法を工夫する。
 - 各授業・各単元終了後の振り返りを大事にし、生徒の知識・技能の習得状況や活用状況を確認して、必要に応じて補充指導・個別指導をする。

【参考】

観点別正答率

問題の内容	正答率	目標値
	国東市計	
外国語表現の能力	55.2	48.4
外国語理解の能力	64.6	61.1
言語や文化についての知識・理解	53.0	50.4

「英語好きですか?」・「英語の勉強がわかりますか?」

	平成28年			平成29年			平成30年		
	国東市	大分県	全国	国東市	大分県	全国	国東市	大分県	全国
英語の勉強が好き	55.0	57.8	55.9	65.4	59.1	55.9	64.3	57.9	55.9
英語の勉強がわかる	59.2	59.7	59.9	71.3	65.6	59.9	67.3	63.4	59.9